

様式 2

会議結果のお知らせ

- 1 開催した会議の名称 平成27年度第3回大分県スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 平成27年8月20日(木) 15時00分から16時30分
- 3 開催場所 大分県庁舎 新館51会議室
- 4 出席者(委員) 谷口会長、松本副会長、木津委員、青野委員、岩尾委員、土江委員、土谷委員、岩本委員、石崎委員、高司委員、安部委員、丸山委員、村上委員(13名/19名)
(欠席) 牧委員、渚委員、小野委員、笹原委員、銅城委員、角山委員
(陪席) 上田県体育協会事務局
(事務局) 工藤教育長、蓑田体育保健課長、栗林課長補佐、安部主幹、笠木指導主事、仲摩指導主事
(その他) 政策企画課 小春主事
- 5 公開、非公開の別 公開
- 6 傍聴人数 0名 (マスコミ2社)
- 7 議題
(1) 今後の県立総合体育館のあり方について
- 8 主な内容

議事の概要、委員からの主な質問・意見は、次のとおり。

議題(1) 県立総合体育館のあり方について

① ランニングコスト、機能低下について

【議長】総合体育館の長寿命化にかかるランニングコストの計算根拠について確認したい。

→ 修繕費用は、県の保全計画に基づいて、積み上げたものである。

指定管理費用は、他県の同様の施設平均単価が8,000円/m²になるので、延べ床面積11,000m²を乗じている。

使用料は、総合体育館の使用料をベースに、移転するようになっている柔・剣道場の収入を減じ、その他の会議室等は、現在の使用料を総面積で、占める割合で按分して計算。

- 現状や将来的なランニングコスト等の理解をいただけたということで確認してもよいか。
- 委員承認。

②大分市との協議について

【議長】今後の総合体育館のあり方を検討するに当たり、新施設の規模が大きな要素となりそうである。次の観点から意見をいただきたい。

- 2館（新しい施設と総合体育館）併存に当たっての課題
- 大分市との協議から大分市の意向を反映させる形での提案
- 新施設を提言規模から拡張することの是非

- 最終的には大分市の意向を踏まえた体育施設になるということか。
- （メインアリーナ）の規模については、現在詰めている段階なので、種目ごとの面数で表している。
- 要望として、バサジィ、三好、ヒートデビルズもあるので、観客席5000席のうち固定席3500席はお願いしたい。固定席でどのくらいを考えているのか。
- 提言書の2000席以上をベースとするが、アリーナ面積が増えると、それに伴い固定席の増加が見込める。また、1階アリーナ部分に可動席を1000席程は確保できる。その場合、3500席程度がパイプ椅子等以外で確保できると想定している。
- 2館併存の課題として、新施設には全国・九州大会等の大きな大会が入ってくる。総合体育館と役割分担を明確化して、大分市との協議を行うべき。
- 規模的には、予算的な問題はあるが、しっかりしたものをつくるように最大限努力して欲しい。

【議長】新しい施設と総合体育館の機能の役割分担はどうか。

- 今の大洲は、県域施設としての機能が不十分であり、新施設が大洲が果たすべき機能を集約できる。その時に大洲をどうするのかという議論はあると思う。
現時点で、具体的な面積は示せないが、かなりの面積になる。新しいアリーナは相当な大会が開催でき、県の施設としての役割が果たせる。
- 大分市の意向を踏まえた体育施設では、バレーボールの利用可能面数が5面（奇数）になっているが、レイアウトを考えた時、4面または6面（偶数）にならないのか。
- 面数については、コートのレギュレーション通り取ったものを示している。

【議長】大分市の意向を踏まえ、全国大会が多種目において開催可能となる規模でよいか。

- 新施設の整備にあたって、大分市との連携も大事だが、今の段階で武道関係者との連絡はなされているのか。そのことについての状況を聞きたい。
- 武道に関しては、武道関係者、競技団体からも様々な要望をいただいております、十分に配慮しながら検討している。

【議長】現状については事務局の提案の方向で承認いただけるか。

- 委員承認

【議長】新施設の機能及び総合体育館のあり方について、さらに議論したい。

③ 新施設の機能と総合体育館のあり方について

- 他の体育館や武道館には、相撲、弓道があるが、その点はどうなっているのか。
- 提言では、弓道場は、大洲に近的・遠的とも立派な施設が存在しており、著しい老朽化や大会で使用できない等大きな問題はない。また、相撲場は、宇佐市に練習場を兼ね備えた全国大会規模を開催できる施設があるという整理をされている。
- 相撲場のイメージを教えてください。

- 県内では屋内で練習する施設が少ないので、1、2面程度に観客席というイメージであるが、大規模なものではない。
- 屋内の中規模の施設と考えていいのか。そうであれば、相撲場の設置もお願いしたい。
- 大分市の相撲場は、屋外のため、指導者の養成事業等に全く利用できない状況。中規模程度の相撲場が屋内にあるのはとても魅力的である。
- 相撲場は専用施設なのか。その利用頻度はどれくらいか。経費やコスト等の数字を提示して協議すべきではないか。
- 施設全体の面積も固まらない段階なので、相撲場を入れるのかどうかの意見を先ずいただきたい。

【議長】 武道機能を充実させる為には、柔道、剣道場にとどまらず、相撲場、そして将来は弓道場等々も含まれることから、今回は相撲場の設置、整備という文をいれさせていただきたい。

- 予算規模を一度発表している。規模が大きくなるのはよいが、予算規模についてはどうなっているのか。
- 現在、面積について検討しており、提言案より大きくなるのは間違いない。我々としては費用についてもできるだけ抑えていきたい。コンパクトにできるものは整理し、大銀ドームを上手く使うことによって機能的にカバーしながら建設費を抑えていきたい。
- 規模が大きくなり、新国立と同じようなイメージをもたれると困る。県民が幅広く使えるものをつくってもらいたいが、機能は増え、お金も何倍にもなったということにならないようにして欲しい。
- 50年、またそれ以上に一度しかできない施設なので、県民、市民の思いをしっかりと踏まえて対応したい。

【議長】 武道館の集約という観点から相撲場の必要性について、賛同いただけるか。

- 異議なし。委員賛同。

【議長】 新施設に対する機能や総合体育館のあり方について意見はないか。

- 大規模大会になると参加者が多く、動線や人だまりや昼食等々、実際に大会を運営する時を想定しながら、慎重に計画を立ててもらいたい。予算が厳しいからといって中途半端なものにならないようにしてもらいたい。
- 大規模大会の開催を想定しているのであれば、スムーズに運営できるパブリックスペースも検討してもらいたい。
- 動線とパブリックスペースについては、提言書に「誰もが気軽に利用でき、交流ができるよう、また大会の際にはそこで様々な交流ができる」とあるので、ゆとりのあるスペースがとれるように、今後プロポのなかで業者に提案してもらうこととしている。
動線についても同様に、様々な機能をもつ施設になるので、その機能が有効に活用できる施設となるよう、業者の提案を受けながら、ゾーニングとゾーニングブロックの配置を計画したい。
- 建物だけでなく、公園全体の動線、特に駐車場についてはしっかりと考えてもらいたい。
- 指定管理者にも意見を聞いて判断していきたい。

【議長】 新しい施設との関係のなかで、県立総合体育館を今後、どのような意味合いをもって存続させていくのか議論しなければならない。その点について本日、性急に結論は出さないが、今後審議会として教育委員会に答申を出すにあたっては、あと2回予定している審議会のなかでもう少し議論を深めていきたい。

- 今後あと2回の審議会を予定している。次回は現地で視察を行い、大銀ドームと総合体育館の現状を見ていただきたい。
そして、第5回審議会では、答申を出していただきたいと考えている。

- 9 会議の資料名一覧 平成27年度第3回大分県スポーツ推進審議会
説明資料
- 10 問い合わせ先 担 当 課 大分県教育庁体育保健課
電話番号 097-506-5645